



苫小牧市議会議員  
小山 征三

通信

『春』号  
2014年 4月

小山せいぞう後援会

苫小牧市ときわ町 1丁目19-23

TEL0144 (67) 8255

2014. 2. 21~3. 14

## 第14回市議会定例会

一般会計予算審査特別委員会

### 町内会活動助成金などの窓口一元化

一昨年来、町内会活動への助成金・補助金申請の窓口を一元化して利便性を向上できないのかと質問してきました。今議会では、平成26年度から住民組織活動助成交付金と高齢者対策促進助成金、青少年対策促進助成金の3件の申請窓口を一元化することが明らかになりました。

私は、手続きなどの簡素化を確認しました。

1点目は窓口を一元化することで、各申請書類など簡素化が図れているのか。また、報告書の提出はどのように扱うのか。2点目は3件の助成金・補助金の金額に変更はないのか。3点目は町内会活動における怪我、事故などの傷害保険の検討状況についてです。

これに対し市側は、申請手続きを一元化することとし、申請方法は、丁寧に説明し申請期間も猶予していきたいとしました。また、報告などは前年度の実績を申請時に添付することで省略するとしました。

青少年対策促進助成金については、子供の人数により金額の配分に変更が生じること、傷害保険については町内会の意向などについてアンケート調査を行いながら検討を進めていることを明らかにしました。

### 空き家・危険家屋の解消へ

昨年2月の議会では、専決処分で公費を投入し空き家・危険家屋の撤去が行われることについて質問しました。その時点での危険家屋などは、既にリスト化されているものが28軒、危険家屋が9軒あるとしていました。



そこで、現在の危険家屋の状況と新年度に解消する地域について見解を求め、今後の条例化の方向性についても見解をいただきました。

市側は、危険家屋としてリスト化されている家屋は25軒（昨年比3軒減）と説明。このうち危険な状況にある家屋は7軒（昨年比2軒減）で、新年度には有明町や元町の共同住宅など3軒の危険を排除していく旨の答弁がありました。

条例化などの整備については、国が制度化を進めている空き家対策の推進に関する特別措置法案の動向を注視していきたいとの見解を示しました。

## 新年度予算案可決

第14回市議会定例会は議案44件、報告5件、陳情1件、諮問1件、要望意見書7件などの審議が行われ、「平成26年度各会計予算案」を可決しました。

市長は市政方針として「財政健全化」、「行政改革」、「市民自治の推進」の基本政策を軸に、重点施策に「企業誘致」、「景気・雇用対策」、「CAP（まちなか再生総合プロジェクト）」、「災害に備えたまちづくり」、「福祉」、「教育行政」、「子ども・子育て支援」、「スポーツ振興」、「広域連携」、「苫小牧中央インターチェンジ」などのまちづくりを目標に掲げ、教育長の教育行政執行方針と共に代表質問で論議が行われました。

# 高齢者等緊急通報システムのサービス業務拡大へ

高齢者緊急システムは、高齢者等が発作や急病、事故のときに通報装置の「緊急ボタン」やペンダント型発信機を押すことで、消防署に自動で通報され救急車や消防車が出動するシステムです。また、健康等に関する不安がある時は、相談ボタンを押すことにより相談に応じることになっています。

このシステムは、一人暮らしの高齢者世帯や高齢夫婦のみの世帯、別居の家族から目が届きにくい高齢者の増加を踏まえ高齢者世帯の安全の確保から昭和63年に厚生省の補助金制度をきっかけとして全国の自治体に普及しました。

しかし、苫小牧市の現状を調べますと平成10年に利用者が209人、平成11年、12年は207人でしたが、高齢者が増えている中、現在は196人ととどまっていることが分かりました。私は、他市を調べたところ同規模の帯広市では既に850人の利用者があることから本市の運用実態を指摘し、改善を求めました。

本市の場合、健康相談に応じるなどの対応は、平日は日中(8時45分～17時15分)だけ。夜間休日は留守番電話となるため翌週の勤務日まで放置されていました。

なぜ帯広市が、ここまで拡大を出来たかと言いますと、そこには民間事業者の活用がありました。札幌市も昨年10月から民間事業者に委託し、約500人の利用者拡大を図りました。民間事業者は、24時間365日対応で看護師などが相談に応じているからです。

市長は、帯広市の実態に驚き「民間委託も含めて苫小牧に合う方法を検討する」との見解を示し、併せて「24時間相談や見守りコールは、外部委託を早期に検討したい」と述べました。

最近の民間活用は、市の施設(コミセン、保育園など)を指定管理者や委託事業者に低賃金で管理させるコストカット中心の活用が目立ちます。本来、市民サービスの向上が目的であれば、このような緊急通報システムの運営こそ民間事業者を活用すべきと考えます。

## 苫小牧民報

2014.3.6(木)

苫小牧市議会の一般委員 算審査特別委員会は5日午  
後、総務費と民生費の質疑を  
行った。理事側は高齢者等  
緊急通報システムのサービス  
向上に向け一部外部委託を  
検討する考えを示した。

小山征三氏(民主・市民の  
風)は同システムで現状、夜  
間休日相談対応が不十分な  
ため、サービス向上が見込める  
民間委託を提案。理事側は  
24時間相談対応や定期的な見  
守りコールの2点で「外部委  
託を早期に検討したい」と答  
弁した。また、市長は「多  
少請はかかるが、(全面的  
な)民間委託も含めて苫小牧  
に合う方法を検討する」と述

### 一部外部委託を検討

### まちに合った手法を模索

本市の利用者196人  
帯広市は850人

## ときわ・澄川地区に交番新設を要望 ☆☆☆

「必要性は理解され、実現の見込みは遠くない」市長の見解!

昨年2月発行の「防犯だより」によると平成24年中の交番別刑法犯発生件数は、市内12交番全体で1702件、そのうち糸井、錦岡の両交番エリアで528件と31%を占めています。これは犯罪率が高いのではなく、2つの交番で管轄する面積が広範囲であることを示しています。交番の設置は、早急な課題として見解を求めました。岩倉市長は「この地区の交番の必要性は、苫小牧警察署にも理解されている。実現の見込みは、そう遠くない」として、本年2月12日に北海道警察本部へ要望したとしました。

平成24年 苫小牧市内交番別刑法犯発生件数

※ 苫小牧警察署公表による速報値比較

交番名	臨港	駅前	本町	弥生	双葉	山手	勇払	沼ノ端	錦岡	美園	糸井	木場	計
24年	49	135	51	106	102	75	23	219	173	266	355	148	1,702
23年	73	126	71	137	117	76	30	219	171	334	351	141	1,846
増減	△24	9	△20	△31	△15	△1	△7	0	2	△68	4	7	△144



《熱血現場主義》 小さなことでも身近な問題を地域から発信します!